

# 図書館通信 9月

教室掲示用

2024. 9 土浦湖北高校図書館

## 図書館からのメッセージ

気がつけば夏も終わり、秋の気配が感じられます。秋と言えば、  
古来、1年で最も月の美しい季節と言われてきました。  
美しい秋の月を見上げてのんびり読書、そんな日々を送りたいものです。



## ～中秋の名月～

旧暦8月15日の十五夜に月見をする習わしのことです。旧暦では秋を7月から9月としており、その真ん中にある8月15日を中秋と呼んでいます。今年の十五夜は9月17日です。ちなみに、旧暦9月13日の夜は「十三夜」と呼ばれ、今年は10月15日です。夜の空を見てみてください。

## 図書館からのお知らせ

9月4日(水)放課後、茨城新聞社の平野有紀様、小岩泰規様にお越しいただき、「SDGsの視点で読み、考える「新聞記事」の活用」をテーマとして出前授業が行われ、2,3年生の図書委員や1年生の希望者が参加しました。

参加した生徒は当日の新聞記事に目を通し、自分の興味のある記事がSDGsの17の目標のどれに関連しているかを考え、意見交換を行いました。

今回の授業を振り返って、今後の学習に新聞をもっと活用していきたいとの声が多く上がりました。



## 図書委員のすすめる一冊

マンガコーナーには『源氏物語』を漫画化した『あさきゆめみし』もあります。併せて、ぜひ読んでみてください。

竹内正彦(監修)『イラスト&図解 知識ゼロでも楽しく読める!源氏物語』(西東社)

今回私が紹介する本は、『知識ゼロでも楽しく読める!源氏物語』です。この本は源氏物語や光源氏について図解で細かく説明しており、源氏物語に触れたことがない人でもわかりやすく読むことができます。さらに、当時の時代背景や関係性といったところも知ることができます。

授業でよく扱われる作品なのでこの機会に手に取ってみるのはどうでしょうか。ぜひ一度読んでみてください。



東野圭吾『容疑者Xの献身』(文芸春秋社)

この本は天才数学者でありながら不遇な日々を送っていた石神が、隣人の殺人を隠蔽するために完全犯罪を企て、その謎に天才物理学者の湯川が挑むという物語です。私がこの本を読んですごいと感じたところが二つあります。一つ目はミステリーとしての面白さです。石神の完全犯罪のトリックが綿密に練られていて、読者としてトリックを考察する楽しさがあります。二つ目はクライマックスシーンの人物の描写です。登場人物それぞれの心情の表現がリアルで、まるで本当に目の前に存在しているかのような気さえてきます。

私はこの物語の表現に、今までに経験したことのない感動を味わい、また、物語を通じたテーマであり「献身」について深く考えさせられました。

皆さんも一度、手に取ってみたいはいかがでしょうか。



秋の夜長にミステリー!  
日本のミステリー作家といえば、  
東野圭吾でしょう!

東野圭吾の『さまよう刃』(角川書店)

この本は長峰家の娘が、ある青年3人組に攫われて殺されてしまうのですが、その青年たちはまだ未成年で法で裁くことができないがために長峰家の父が復讐に燃えるという物語です。この本の面白いところは、法で裁けないなら個人で裁くといった、いわゆる「私刑」が許されるべきかを考えさせられるところです。たとえ許されない行為をしても法が許すということは被害者にとって悔しくてたまらないけど、個人で裁くことは法で許されないの何もすることができないという常識を逸脱し、娘のために法を犯す父親の気持ちが東野圭吾さんの文章力で助長され、とても感情移入できる本なので是非手に取ってみてください。



米澤穂信 他『禁断の罊』(文藝春秋社)

私が今回紹介する本は、新川さん、結城さん、斜線堂さん、米澤さん、中山さん、有栖川さんの計6人の作家の短編で構成されているミステリー小説、『禁断の罊』です。特に私が好きだと思ったのは、斜線堂さんの作品です。これは、迷惑動画の炎上の物語となっています。炎上した本人について、記者が知人にインタビューした記録順に構成されています。本人の談も途中で入るのですが、それを読むにつれ最初に抱いていた印象がまるで変わります。普段報道されている事件も、私たちは表面上でしか知ることができないんだと改めて感じました。他の方の作品もすごく興味深い作品になっているので、ミステリーに興味がある人はぜひ読んでみてください。

